

# 2012年度 神奈川大学非文字資料研究センター 第1回公開展示

## 稲宮康人写真展 帝国後 海外神社跡地の景観変容

期 間：2012年12月11日(火)～20日(木) 10:00～16:30

会 場：神奈川大学横浜キャンパス 16号館 2階 ホワイエ



### 写真展示の概要について

稲宮康人 (写真家)



建国神廟跡 (現 偽満皇宮博物館) 長春・中国

2012年12月11日から20日まで神奈川大学にて「帝国後 海外神社跡地の景観変容」の写真展示を行った。展示したのは、明治以降に大日本帝国領内に建てられた神社が現在どのようになっているかを撮った写真である。海外(台湾、朝鮮、樺太、南洋、満洲の各地域に創られた神社跡)を中心にして、国内の創建神社(檀原神宮、平安神宮、靖国神社)を織り交ぜ、戦前の神社機構の概要を視覚的に提示することを試みた。

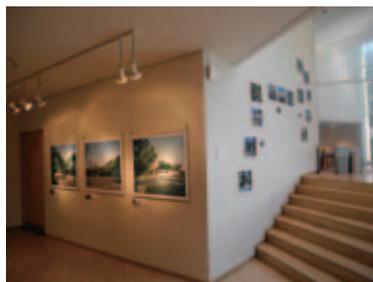
今回の展示は3つの展示方法を用いて全体を構成した。

- ①旧帝国を構成していた前掲各地域の中から代表的な写真を選び地域に関係なく並べ、当時の神社の広がりについて提示。(展示風景①参照)
- ②2011年に行った「海外神社跡地から見た景観の持続と変容」研究班主催の台湾神社跡地調査の際に撮った写真を展示し、特定の地域の中で神社跡地がどのように変化したかを提示。
- ③比較的遺構が残っている3箇所の神社跡地(江原神社・韓国、樺太護国神社・ロシア、嘉義神社・台湾)について、それぞれ複数枚の写真を展示し、広大な神社跡地の全体像を提示。(展示風景②画面右参照)

また、それぞれの場所に対応する当時の



展示風景①



展示風景②

絵葉書・古写真をあわせて展示し、過去と現在の移り変わりがわかるようにした。

撮影にあたって見えてきた各地域の傾向を記しておきたい。今回の展示で一番多くの写真を展示した台湾には比較的神社遺構が多く残っている。ただし、親日国だからと云うような単純な理由ではない。国共内戦に敗れ逃げてきた国民党政府が神社を忠烈祠として使用し、その結果、遺構が多く残った。韓国では神社遺構が残っている場所は少ない。植民地支配のシンボルとして日本の敗戦後焼き討ちされたり、朝鮮戦争時に破壊されたり、経済成長の過程で取り壊されたり、といった複合的な要因があると思われる。神社と植民地支配の結びつきは知られているが、「この場



台湾神社跡（現 圓山大飯店）台北・台湾



南洋神社跡 コロール・パラオ



樺太神社跡 ユジノサハリンスク・ロシア

所に神社があった」という土地の記憶は薄れつつあるように思う。ロシアでは、ほとんどの人が神社の存在を知らず、神社跡地は荒れ放題である。パラオでは空襲で焼けた南洋神社跡地に日本人によって小さな祠が再建されている。神社跡地には国会議員の家が建っており、財政の多くを観光と援助に頼る国が旧宗主国に配慮する姿が見えてくる。中国ではまだ長春と上海にしか行っていないが、経済成長による街の再開発が遺構の今後を決めるように思われる。

今後は大日本帝国の勢力範囲が神社跡地を通して見えてくるよう、中国を中心にして撮影を継続していく予定である。



朝鮮神宮跡（現 南山公園）ソウル・韓国